

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要（中学校）

1 調査の概要

- 実施日 令和4年4月19日（火）
- 調査方式 悉皆調査
- 調査対象 中学校3学年の生徒
- 実施状況 実施学校数 3校
実施生徒数 27人

2 教科別学力調査結果概要

(1) 国語

言葉の特徴や使い方に関する事項	理解できている。
情報の扱い方に関する事項	理解できている。
我が国の言語文化に関する事項	理解できている。
話すこと・聞くこと	理解できている。
書くこと	理解できている。
読むこと	理解できている。
知識・技能	理解できている。
思考・判断・表現	理解できている。
選択式問題	理解できている。
短答式問題	理解できている。
記述式問題	理解できている。
全体として	理解できている。

(2) 数学

数と式	理解できている。
図形	やや課題がある。
関数	理解できている。
データの活用	理解できている。
知識・技能	理解できている。
思考・判断・表現	理解できている。
選択式問題	やや課題がある。
短答式問題	理解できている。
記述式問題	理解できている。
全体として	理解できている。

(3) 理科

「エネルギー」を柱とする領域	理解できている。
「粒子」を柱とする領域	理解できている。

「生物」を柱とする領域	理解できている。
「地球」を柱とする領域	理解できている。
知識・技能	理解できている。
思考・判断・表現	理解できている。
選択式問題	理解できている。
短答式問題	よく理解できている。
記述式問題	理解できている。
全体として	理解できている。

3 今後の取り組み

(1) 国語

「学力向上プリント」を授業や宿題で活用し、基礎基本の力をつけさせる。
 基礎学力テストの過去問題を活用し、入試に向けた対策をする。
 常時行っている漢字テストを継続させ、漢字の力を定着させる。
 漢字については、頻出のもの、同音異義語・対義語・類義語などを中心に、文脈にあった漢字が使えるよう、教科書に掲載されている「漢字のまとめ」で学習を深める。
 漢字の行書に関しては、2学期に書写の学習を行う中で、行書の特徴・部首の変化・画数の変化や省略など、再度解説し、確認させる。
 文章の展開を把握することは、様々な種類の文章や問題を解くことで、慣れさせていく。
 重要な部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを、読み分けさせる。
 組み合わせや、相互関係を整理して、まとめさせる。
 語彙を豊富にさせて、何が書かれているかを問う類似問題に慣れさせる。
 解答例等を参考にし、自分の考えをまとめて書く練習をさせる。

(2) 数学

基礎学力テストの過去問題を活用し、入試に向けた対策をする。
 習熟度別の授業を活用し、基本的な計算等ができる生徒には証明や記述式の問題、段階を踏んで思考を必要とする問題に取り組ませる機会を増やす。基礎コースの生徒には、基本的な計算や知識理解を徹底させる。
 図形については、テスト対策も含め様々なパターンの問題を考えさせ、基本的な合同条件や図形の性質をもう一度確認させる。
 表からの立式については、流れをつかみ、練習する。
 ヒストグラムから代表値（中央値、平均値、最頻値など）をもとに、説明する練習をさせる。
 引き続き計算力を高める。
 国語力タスクフォースを活用し、問題文に線を引かせ、問題内容理解の向上を図る。
 記述力向上のために、模範解答を引用することから練習し、最後には自分の言葉でま

とめる練習をさせる。

(3) 理科

思考力を伸ばすために実験の課程では考察の時間を多くとり、個人で考えてから班で考えるようにして、まずは、一人一人が考えるようにする。

円滑に思考が行えるように、視覚的な情報を提供する。

事物・事象の共通点や相違点を自分の言葉で出し合う場面を多く設定し、学習を深めるとともに、知識の定着を図る。

知識をもとに実験結果を文章で考察・説明する場面を設定し、科学的な思考力・判断力・表現力の定着を図る。

教科書以外での生活に密着した内容も取り上げ、今まで以上に理科と生活の関連を図る。

キーワードを読み取り、表、図、グラフ等を書き込んで問題を解く手がかりを探すようにする。